

# 令和2年産雑豆の収穫量と 令和3年産雑豆の作付指標面積について

(公財)日本豆類協会

## 1. 令和2年産雑豆の収穫量

農林水産省大臣官房統計情報部では、令和3年2月26日付けで「令和2年産小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量」について公表した。ここではその調査結果から雑豆に関する部分を抜粋して、下記のとおり紹介する。

### (1) 小豆（乾燥子実）

#### ①作付面積

全国の作付面積は2万6,600haで、前年産に比べ1,100ha（4%）増加した。これは、主産地である北海道において、他作物からの転換があったためである。

#### ②10a当たり収量

全国の10 a 当たり収量は195kg で、前年産を16%下回った。これは、主産地である北海道において、登熟期の高温により粒の肥大が抑制されたことに加え、収穫期の降雨による被害粒が発生したためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は、89%となった。

#### ③収穫量

全国の収穫量は5万1,900 t で、前年産に比べ7,200 t（12%）減少した。なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の94%を占めている。

### (2) いんげん(乾燥子実)

#### ①作付面積

全国の作付面積は7,370haで、前年産に比べ510ha（7%）増加した。これは、主産地である北海道において、他作物からの転換等があったためである。

## ②10a当たり収量

全国の10 a 当たり収量は 67kg で、前年産を66% 下回った。これは、主産地である北海道において、登熟期の高温により粒の肥大が抑制されたことに加え、収穫期の降雨、日照不足による着色不良等の被害粒が発生したためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は、35% となった。

## ③収穫量

全国の収穫量は4,920 t で、前年産に比べ8,480 t (63%) 減少した。なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の95% を占めている。

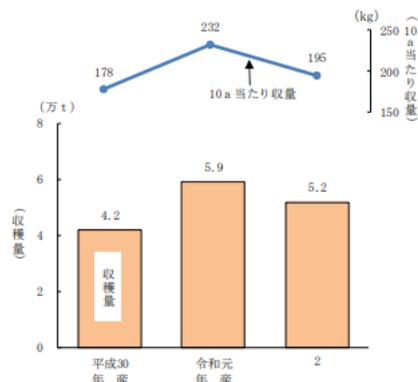


図1 小豆の10a 当たり収量及び収穫量の推移

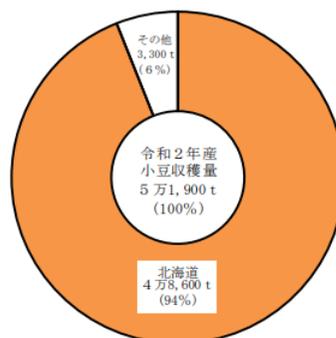


図2 令和2年産小豆の都道府県別収穫量及び割合

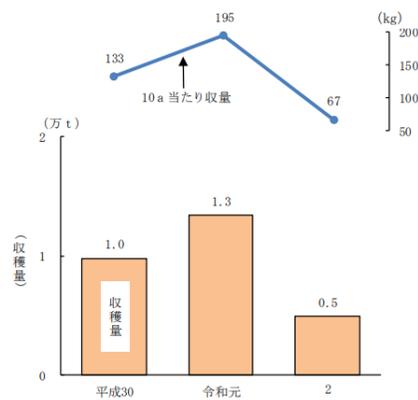


図3 いんげんの10a 当たり収量及び収穫量の推移

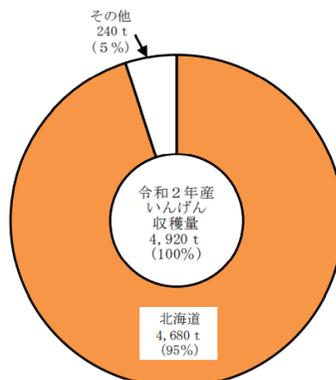


図4 令和2年産いんげんの都道府県別収穫量及び割合

表1 令和2年産小豆(乾燥子実)の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						( 参 考 )	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	26,600 <sup>ha</sup>	195 <sup>kg</sup>	51,900 <sup>t</sup>	1,100	104%	84%	△ 7,200 <sup>t</sup>	88%	89%	218 <sup>kg</sup>	
う ち 北 海 道	22,100	220	48,600	1,200	106	83	△ 6,800	88	87	252	
滋 賀	191	102	195	82	175	132	111	232	144	71	
京 都	451	58	262	4	101	107	21	109	114	51	
兵 庫	807	80	646	21	103	131	167	135	123	65	

表2 令和2年産いんげん(乾燥子実)の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						( 参 考 )	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	7,370 <sup>ha</sup>	67 <sup>kg</sup>	4,920 <sup>t</sup>	510	107%	34%	△ 8,480 <sup>t</sup>	37%	35%	191 <sup>kg</sup>	
う ち 北 海 道	6,880	68	4,680	540	109	34	△ 8,020	37	34	198	
う ち 金 手	4,780	62	2,960	190	104	33	△ 5,720	34	35	177	
手 亡	1,780	78	1,390	420	131	33	△ 1,820	43	31	254	

注:「金時」、「手亡」とはいんげんの種類を示す。

表3 小豆及びいんげんの作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移

区 分	小豆			いんげん		
	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量
	ha	kg	t	ha	kg	t
平成23年産	30,600	196	60,000	10,200	97	9,870
24	30,700	222	68,200	9,650	187	18,000
25	32,300	211	68,000	9,120	168	15,300
26	32,000	240	76,800	9,260	221	20,500
27	27,300	233	63,700	10,200	250	25,500

## 2. 令和3年産雑豆の作付指標面積(北海道)

### (1) 小豆

北海道産小豆類の作付拡大と安定供給が求められているなか、JA北海道中央会等により令和3年産の作付指標面積が昨年より400ha減の22,100haに定められた。

小豆については、新型コロナウイルスの影響を強く受け、消費が減少しており、令和2年雑豆年度末で1年以上の在庫が発生することが見込まれている。一方、小豆の作付け指標作付面積については、平成28年産の大不作・供給不足による需要の喪失を受け、平成29年産以降、作付け拡大による供給量の増大、海

外産に流れた需要の回復を行ってきた経過にある。

こうした経緯を踏まえ、令和3年産の作付け指標面積については、令和2年産の作付け実績見合いで設定することとされた。

## (2) いんげん

北海道産いんげんの令和3年産の作付け指標面積は、菜豆等として、金時、手亡、えん豆等をまとめて昨年より120ha増7,181haとされた。

表4 令和3年産雑豆の作付け指標面積(北海道)

区 分		2年産 実績面積	3年産 作付け指標	備 考
雑 豆	小豆	22,027	22,100	
	菜豆等	6,975	7,181	えん豆等を含む

\* 2年産実績面積は、道内農協からの聞き取り値の集計